

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市沢川町三丁目5番地7
 (沢川福祉センター内)
 TEL0561-51-2878

平成二十五年
 六月七日(金)
 お米を育て、
 成果はありました。

今の社会は急激な変化を起している。この中で食に関する負の問題も急務としてきた。どうせ食をばらばらにしようものか、おいしいものはじめのうちに潰れてしまおうか、これは初歩的疑問です。食品については料理法の研究、血圧やコレステロール値に影響する機能性食品の問題など関連情報も氾濫しており、咀嚼しきれないほどだじかしの食品が、かじの様に注産されて、そのか安全なのか危険なのかという野心的なところは、皆自分からなにか現状です。なかに効くなどという素晴らしい機能性食品も



2013.06.07

来年は不
 耕起、秋植
 栽培、冬期
 湛水農法
 も実地する
 まう考えよ
 う。
 冬期湛水
 とは、冬に田
 んぼに水を
 張っておく
 農法。
 冬にも田んぼ
 に水を張る
 おこぼり
 田んぼの中
 の水は、光合
 作用を促し
 植物を育て
 たいやそれ
 餌にする



2013.06.07



2013.06.07

農業の洗礼を受けて、お米は食品としての価値は台無しに近づいてしまふ。
 近年、トレストリサビリという言葉が登場しました。生産履歴の公開です。しかし公開された中身はあやしいもので、化学肥料と農薬の使用量を半減しただけから安全、安心と表示してあります。地方自治体のエコ認証が付いているものもあります。なぜ安全なのかという理由が書かない、自然界にはない化学物質、ある農薬が半分の使用量になるのか、安全でしう。また食卓には家庭で調理されたもの、加工食品、工場で調理された加工食品が、多く出ています。安全が担保されているか、自分の健康は自分で守る。

動物プランクトンの発生を助ける。イネの生長には、養分供給が必要。供給するもの、その結果として無肥料栽培は、また、雑草の発生も抑えられ、ます。無農薬栽培にはなりません。

名都高等学校の生徒、子供達の田植えに協力してくれました。



2013.06.07

暑中、アツク天日に植えています。



2013.06.07